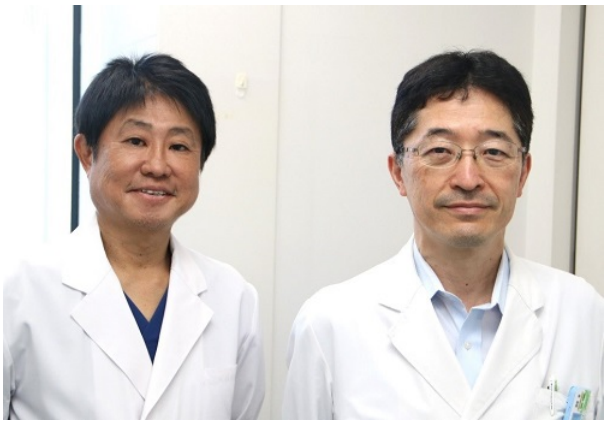
地域情報（県別）

【東京】新病院では医師教育にも注力「将来は日本有数の脊椎外科施設に」-森俊一・医療法人社団博豊会理事長に聞く◆Vol.2

2023年6月2日 (金)配信 m3.com地域版

「ボトムアップ経営を軸に、スタッフが働きやすい病院にしたい」。医療法人社団博豊会の森俊一理事長は、2023年9月に開院する「東京脊椎病院」（足立区）の運営に向け、こう意気込みを話す。多職種が在籍する同院ではリハビリにも注力し、若手医師の教育も担っていく予定。森理事長は、「まずは着実に成長できる環境づくりに取り組む」とし、将来的には「日本有数の脊椎外科施設」を目標に描く。（2023年5月10日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回はこちら



森俊一理事長（左）と和田圭司院長

――森先生はクリニック運営での課題感（詳細はVol.1を参照）から、2019年ごろに病院をつくる構想を描き始めたといいます。着工までの流れは。

東京都で病院をつくるには、都が定める病床配分の計画に基づく必要があり、加えて土地の確保も必要です。病診連携の点から「八王子市内で」とも考えましたが、先述の条件下で現実的に可能だったのが、足立区での開設でした。銀行にプランを提案して融資のめどをつけ、2020年ごろに都に申請。クリニックとの距離感は少し気になりましたが、クリニックをつくったときも縁のない落下傘での開業だったので、立地面での抵抗感はさほどありませんでした。

保健所から開設許可が下りたのが1年と少し前で、そこからスタッフの採用を始めました。病院の開設地には建物があったのでそれを壊して2022年6月に更地になり、ほどなくして建設工事が始まりました。

――病院を開設した複数の開業医は、「土地の確保」「資金調達」「人材採用」の面で「難しさがある」と話していました。

人材面には難しさを感じています。開業してから実感が強まりましたが、医療業界は慢性的に人手が不足しており、常に補充を考えながら経営する必要があります。さらに病院をつくるに当たっては、採用活動を始めるタイミングも気にしなくてはなりません。「計画していたけれどつくれなかった」ではダメなので、開設許可が下りてからがスタート。短期間で多くの人を集める必要があるので、簡単ではないですね。

一方で、建物ができてくると問い合わせは増えてきました。病院は小学校くらいの広さがあるので、インパクトが大きいのでしょう。「建物を見て応募した」と話す人もいます。病院の概要や工事の進捗状況、求人情報は病院のホームページで紹介しています。

2023年3月時点の工事状況（法人提供）

完成後のイメージ（法人提供）

――開院時には多職種100人ほどが在籍する予定といいます。

設備（詳細はVol.1を参照）と同じように、人的体制もクリニックの特徴を生かす予定です。2022年9月に院長に就任した和田圭司先生も言っていますが、クリニックでは医師が診療に集中できる環境を整えています。医師の診察時には医療秘書が同席し、患者さんが話す内容をパソコンに代行入力しています。保険関係の書類作成も医療秘書が行えるようにしており、手術のスケジュール調整もスタッフが担っています。

――開院後はどのように地域連携をしていきたいですか。

足立区医師会の集まりに複数回参加しました。同医師会では区内で完結できる医療体制を築きたい思いを強く持っているので、開院後は循環器や脳外科などにおける術前チェックを周辺の医療機関にお願いしたいと考えています。逆に、脊椎外科に特化した対応は東京脊椎病院が行えるので、良いシナジー効果を生み出せれば。

開業医の先生方に向けた活動も既に行っており、脊椎外科に関するオンラインセミナーの第1回を3月に開き、今後も定期的に行っていく予定です。脊椎外科の理解を深めてもらいつつ、良好な病診連携を築きたいですね。

――病院では医師の育成も担っていきたいとのことです。

病院では、脊椎脊髄外科がサブスペシャリティではない整形外科専門医も雇用していく予定です。クリニックでは医師1人の影響力が大きいので習熟した人が在籍していますが、病院では多くの人が働くので、多職種で協力しながらサポートしたいと考えています。脊椎外科に特化した医療機関は都内でも少ないので、この分野で早く成長したい医師には良い環境を提供できるのではないでしょうか。

クリニックから派生する病院なので出身大学を気にする必要がない一方、クリニックでは東京医科歯科大学と連携しており、人材交流もあります。地方の医師が当院に勤務した後も根なし草にならないよう、次のフィールドを見つけやすいよう、つながりづくりも支援したいです。

――最後に、今後の展望を。

日本でも有数の専門施設に成長することが目標です。そのためには、手術とリハビリの質を高い水準で保ちつつ、スタッフが働きやすい環境をつくることが重要です。

2013年に開院したクリニックでは成長スピードを意識してきましたが、多くの人が働く病院では職員個々のペースを大切にし、皆で着実に進んでいきたい。そのためにも職種や部門の垣根なく情報や考えを共有し、ボトムアップで声を出していけるような雰囲気づくりに取り組んでいこうと思います。それが、「安全な医療の提供」という形で患者さんにも還元できるのではないでしょうか。

◆森 俊一（もり・しゅんいち）氏

1993年愛媛大学医学部卒。帝京大学医学部附属溝口病院や鎌ケ谷総合病院脳神経外科脊椎センターセンター長などを経て、2013年に八王子脊椎外科クリニックを開院。2023年9月に開院する東京脊椎病院の院長に就任予定。

【取材・文・撮影＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索